

飛鳥資料館 冬期企画展 「飛鳥の考古学2017」

飛鳥地域では、近年も継続的な発掘調査が続いています。小山田遺跡は、2016年度までの調査で古墳であることが確定し、牽牛子塚古墳では築造に際し、周辺の山を削り、谷を埋め立てるなど、大規模な土木工事をおこなっていたことがわかりました。「槻樹の広場」があったと考えられている飛鳥寺西方遺跡では、石組溝や掘立柱建物等多くの遺構がみつき、遺跡南部の土地利用のあり方があきらかとなってきました。飛鳥京跡苑池では、南池の東側で門や建物が確認され、池に付属する施設の様相が徐々に判明しつつあります。

また、藤原宮跡では、朝堂院朝庭の調査で、大宝元年(701)の元日朝賀の際に幢幡を立てたとみられる柱穴がみつかる等、大きな成果があがっています。さらに、藤原京右京九条二・三坊でおこなわれた調査では、藤原京期の遺構の下から、弥生時代終わりの大型円形周溝墓が発見され、前方後円墳の成立過程を考える上で新たな資料が加わりました。

今回の展示では、これらの遺跡を中心に、2015・2016年度に飛鳥藤原地域でおこなわれた発掘調査の成果を紹介します。

(飛鳥資料館 若杉 智宏)



会 期：2018年1月26日(金)～3月18日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日) ※2月4日(日)は無料入館日

開 館 時 間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2017年12月